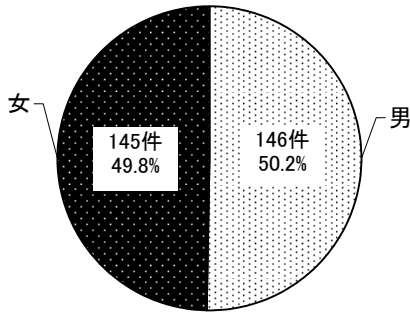


# 【特別相談の結果と相談事例】

## 1 全体の状況

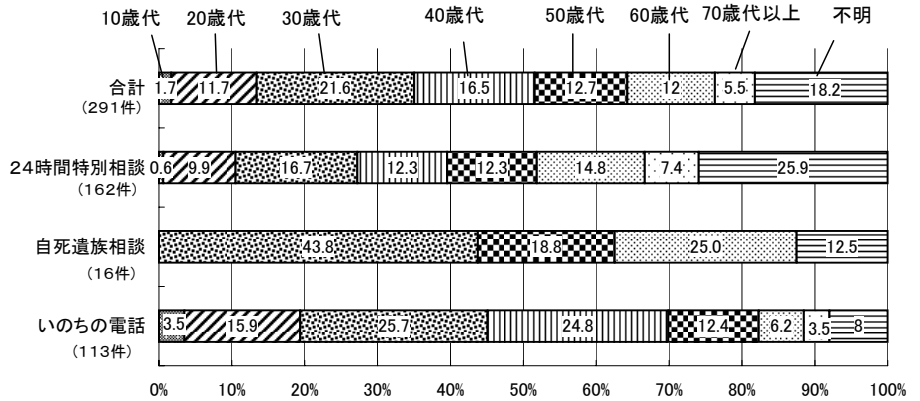
### (1) 男女別相談状況

【全体291件】



・男女比は、男女約半々である。

### (2) 年齢別相談状況



・10歳代から80歳代まで、各年齢層から幅広い相談があった。  
 ・最も多かったのは30歳代(21.6%)

### (3) 自殺の危険性

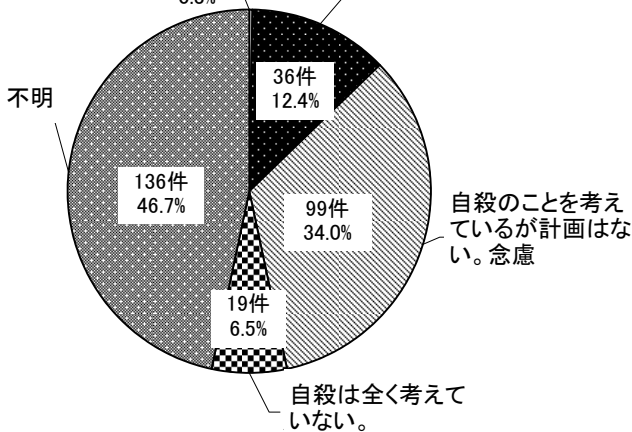
今にも自殺しよう。実行中 1件 0.3%

自殺のことを考えており計画もある。自殺予告・危険 36件 12.4%

自殺のことを考えているが計画はない。念慮 99件 34.0%

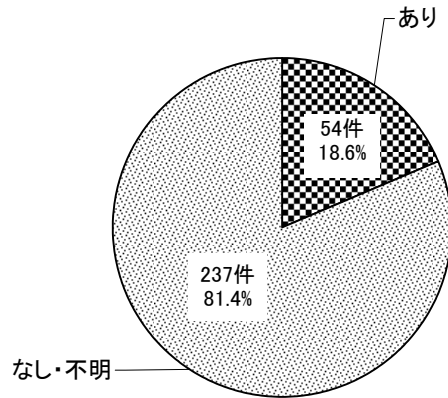
自殺は全く考えていない。 19件 6.5%

不明 136件 46.7%



・自殺の計画があるなど危険性の高いケースが、37件(12.7%)、計画はないが、自殺を考えているなどのケースが99件(34.0%)あった。

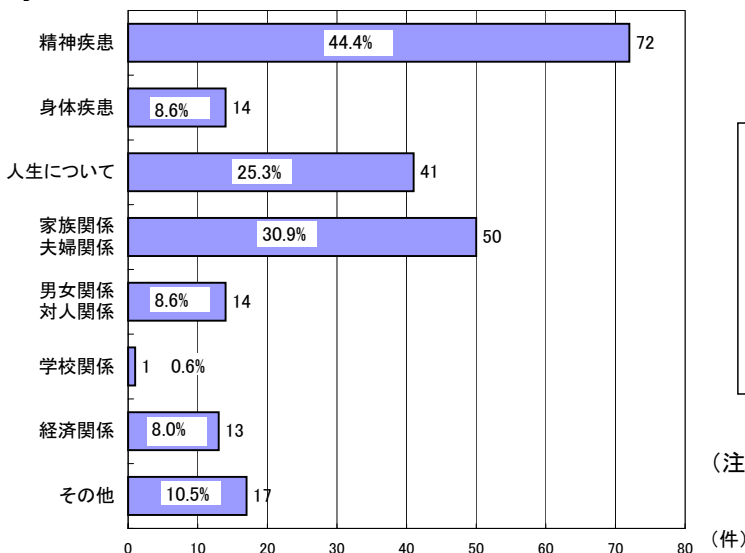
### (4) 未遂歴の状況



・自殺未遂歴のある相談が、約5件に1件の割合であった。

## 2 各相談の状況

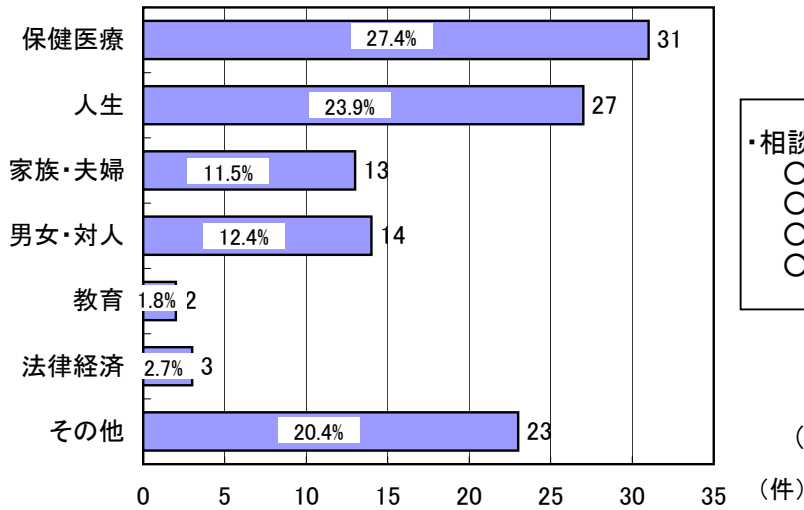
### (1) 「24時間特別相談」の相談の主訴



・相談の主訴として多かったのは、  
 ○精神疾患(アルコール・薬物依存含む) 44.4%  
 ○家族関係・夫婦関係 30.9%  
 ○人生について(厭世感、孤独感等) 25.3%  
 ○身体疾患 8.6%  
 ○男女関係・対人関係 8.6%  
 ○経済関係(借金、失業等) 8.0%

(注) 相談件数 162件  
 主訴は複数の場合がある。

## (2) 「自殺予防いのちの電話」の問題別相談状況

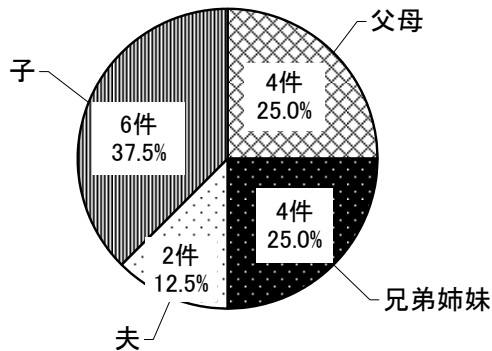


- ・相談内容となる問題として多かったのは、
- 保健医療(精神・身体疾患) 27.4%
  - 人生(生き方、孤独感) 23.9%
  - 男女関係・対人関係 12.4%
  - 家族関係・夫婦関係 11.5%

(注) 相談件数 113件

## (3) 「自死遺族相談ダイヤル」の状況

<亡くなった方と相談者との関係>



- ・いずれも身近な家族を自殺により亡くした方からの相談である。
- ・相談の訴えとして多かったのは、
- 「なぜ気づけなかったのか」などの自責の念、後悔
  - 「(自殺したという)本当のことを隠している」「どこにも話すことができなかった」という辛い気持ちの訴え

(注) 相談件数 16件

## 3 相談事例

### 【1】

家族ががん、うつ等で、家事や介護を長くしてきた。自身も病気のため死にたい。しかし、死ぬのは怖い。こんな話は友達にもいえない。精神科と、この電話でしか話せない。

(70歳代 男性)

### 【2】

妻が子どもを連れて家を出てしまった。子どもに会えなくなり淋しい。酒ばかり飲んでいる。死にたい。自殺未遂もしている。

(30歳代 男性)

### 【3】

亡くなった子どもの苦しさを自分が気づいてやれなかったのだと自分を責めてしまう。親戚などにも自分が責められるのではないかと怖くて話ができない。

(50歳代 女性)

### 【4】

周りに本当のことが言えない。親戚にも「病気で亡くなった」と言っている。亡くなった理由が分からず、納得がいかない。とにかく話をきいてもらいたかった。

(60歳代 女性)